

無主語文

有 田 潤

解 説

ドイツ語では——意味の点はしばらくおくとして——文構造上決定的に重要なのは定形であって主語ではない。だから文型を整理する場合、主語は1文肢にすぎず、S+V...などは、英語と違ってあまり意味をもたない。しかし、英語からはいった学習者は「主語」を当然の要素と考えるから、ドイツ語教育で強調すべきものは、定形を基礎とし、主語を欠く文型である。

„Gott sei getrommelt!“ Emil atmete befreit auf und steckte das Geld ein. Und zwar besonders vorsichtig. (E. Kästner)

「万万歳だ。」エーミールは安堵の胸をなでおろして、金をポケットにつっこんだ。慎重の上にも慎重に。

§1. 方 針

筆者は『ドイツ語学講座』I, 10章で無主語文の諸形態を論じたが、そのさいには関口氏の「Esの省略について」(『ドイツ語学講話』)と重複しないよう項目を選択した。本稿ではほぼ氏の順序どおりに進みながら、問題点を整理し文例を挙げる。なお項目をいくつか追加したい。関口氏の論考と前稿をあわせ読まれるならば、無主語文の文型の大部分はカバーされるとおもう。本稿では特に断わらないかぎり、非人称主語 *es* の省略としての無主語文を扱い、また関口氏が7番目に挙げている *läßt sich...* 型の無主語文は「*sich...lassen*」で論じたい。

無主語文の概念も10章と全く同じであって、定形を含む語群をここで

は「文」と定める(予定, 27章)。また, 非人称 N 格の es (例: Es ist mir kalt.) は主語であって, ドイツの 2, 3 の学者がいうような Füllwort 「填詞」だとは考えない。あるいは, そう考える必要を認めない。非人称の es を Füllwort と呼ぶことは A 格ならば意味をなすが, N 格の場合には無用のわざである。Es ist mir kalt. は無主語文ではない。

備考: 非人称 A 格の es は別論にゆずる。

非人称文における主語 es の省略とはむしろ倒置と後置の場合のことである。ドイツ語における非人称主語の出没については I, 9 「非人称語法」を参照されたい。es の脱落が起こるのは, 人の A 格, D 格 (mich, ihm 等) が文頭にあるか, または後置文型のさいに多い。またその場合に es の有無を絶対的な規則で律することは不可能である。たとえば

[1] Darum überlege dir wohl, was du dir wünschst, auf daß es
dich nicht nachher gereue. (R. Leander)

だからして, 何を望むべきか, とつくり考えることだ。あとで後悔しないようにな。

にみるごとく, 後置文でも es を存置するのは珍しくない。

以下項目は次のとおり。

§ 2. Mich hungert 型

§ 3. Mir ist viel daran gelegen 型

§ 4. 非人称受動

A. 一般非人称受動

B. sich を含む非人称受動

§ 5. ist . . . zu ~ 型

§ 6. Hier ist gut wohnen 型

§ 7. Davon ist nicht die Rede 型

§ 2. Mich hungert 型

[2] Hungert deinen Feind, so speise ihn mit Brot, dürstet ihn,
so tränke ihn mit Wasser. (Sprüche, 25, 21)

汝の仇もし飢えなば、これに糧(き)を食らわせ、もし渴(かわ)かば、これに水を飲ませよ。

このようにルター訳では deinen Feind と ihn の A 格によって非人称主語 es の省略であることが示される (wenn の省略に相当)。ところが

[3] Hungert dein Feind, so speise ihn mit Brot, und dürstet ihn,
gib ihm Wasser zu trinken! (aus Herders Bibelkommentar)

もしあなたのあだが飢えているならば、パンを与えて食べさせ、もしかわいているならば、水を与えて飲ませよ。

においては、dürstet は依然として A 格 ihn を伴って非人称だけれども、hungert のほうは人称動詞の扱いである。また同訳書『ロマ書』(12, 20) では、同じ文が Vielmehr, wenn dein Feind hungert, speise ihn, wenn er
dürstet, tränke ihn. となっていて、今度はどちらも人称動詞である。今日では Ich habe Hunger とか Er ist hungrig というから、こういう問題は起こらないが、以前はこの種の動詞を非人称とするかどうか、多少の不安定さがあったわけである。

改めて文例を挙げるまでもないが、順序として典型的な場合のほか、2, 3 挙げてみる。

[4] Dreimal wiederholte er den Satz. Mir graute vor dieser
stumpfen, verbiessenen Art des Wiederholens. War dieser Mensch
wahnsinnig? War er betrunken? 彼は同じ文を3度繰り返した。わたしはこの無神経な、押しつけがましい繰り返しにぞっとした。この男は頭がおかしいのか? 酔っぱらっているのだろうか?

(S. Zweig)

[5] Aber so sehr ihn verlangte, hinüberzugehen und dabei zu sein und in der Nähe seiner Braut und seiner Freunde das Fest zu genießen, so begehrte er dennoch weit sehnlicher, dies alles als ein feiner Zuschauer aufzunehmen und in einem ganz vollkommenen Gedichte widerzuspiegeln. (H. Hesse)

彼はそこへ出向いて出席し、花嫁や友人たちの近くで祝宴を楽しみたかった。しかし彼は、この一部始終を明敏な見物人として受け止め、完全無欠な詩の形に再現することを、はるかに強く願ったのだった。

[6] Er empfand, daß ihm bei allen Festen und aller Lust dieser Erde doch niemals ganz und gar wohl und heiter ums Herz sein könnte, daß er... (H. Hesse)

彼は、この世のどんな祝いごと、どんな楽しみも、自分を心から楽しませ、晴々とさせてくれることは全くないのだ、と感じた...

[7] Emil war trotz alledem nicht wohl zumute. Und als er seinen Koffer über den freien Platz weg zum Bahnhof transportierte, war ihm flau in den Knien.

(E. Kästner)

にもかかわらず、エーミールはいやな気分だった。広場を歩いてスーツケースを駅まで運んでいったとき、彼は膝の力が抜けたみたいな感じがした。

[8] Ich will euch Wahrheiten in die Ohren schreien, daß euch ewig grausen soll, euch windigen Wichten!... Grinst ihr? Zuckt ihr die Achseln?... Ich trinke... gewiß, ich trinke! (Th. Mann)

お前たちに本当の話を叩き込んでやろう。いつまでもびくびくするぞ、このおっちょこちょいのろくでなし野郎!... ニヤついてやがるな? 肩をすくめてるな? ...おれは飲んべえだよ、まったく、飲んだがどうした!

[9] Pujot führte seinen geretteten Schnellzug. Er ging auf 80 und 90 Stundenkilometer hinauf. Den Beamten im Dienstwaggon

ピュジョーは調子のもどった急行列車を運転した。列車は時速80キロと90キロで登った。乗務車両の職員たちは、この進行に不安を感じたようだった。

mochte bang werden bei dieser

Fahrt, . . . (H. von Doderer)

[10] Bald darauf erhob sich その後まもなく突如として烈風がまき
plötzlich ein großer ungestümer おこり、まるで家をひっくりかえすかと
Wind, der riß und tobte, als ob er おもえるほどに、引きちぎり、荒れ狂っ
das Haus zugrunde stoßen wollte. た。学生たちはあまりの恐ろしさに肝を
Wem war nun banger als den つぶしてしまった。
Studenten? (R. Schinzinger)

[11] Es tönte so schauerlich aus 森の中からは身の毛のよだつ反響が戻
dem Walde zurück, daß uns fror. ってきたので、われわれはぞーっとし
Es kam keine Antwort, und der た。返事はなかった。老人は「こんな目
Alte seufzte; „Muß ich das noch に遭うなんて」といって溜息をついた。
erleben!“ (J. Boßhart)

以上の心身にかかわる非人称語法と、それ以外の場合とは、必ずしも境界がはっきりしない。たとえば文例 [12] などは以上の項に入れることもできよう。

§ 3. Mir ist viel daran gelegen 型

いうまでもないが、非人称語法には、心身の現象のワクに収まらない事態・事情・状況・人間関係を表わすものが少なくない。関口氏は特にそのための項目を設けず、*Mich hungert* 型のなかで、2, 3 実例を挙げるにとどまった。心身型と違ってこの場合には、人を表わす A 格・D 格は必ずしも現れない。10「無主語文」で述べたように、*wie ihm scheint* とか、あるいは次例の *daß ihm schien* という副文はよくみかけるが、主文の 1 例 [13] もある。

[12] . . . seine Augen lächelten ...彼の目は、赤い病んだまぶたのかけ
blöde hinter roten, kranken Lidern, で力なくほほえんでいた。そうして、彼
und allmählich war auch sein Ge- の記憶も徐々に混濁してきたので、この

dächtnis trübe geworden, so daß ihm **schien**, er habe die Welt niemals anders gesehen als heute ; . .

(H. Hesse)

[13] Ich kann Laute spielen, ich kann Lieder singen. Hört doch nur, wie schön es klingt. . . Doch ihr blickt so stumpf, verzieht eure Mienen, mir scheint, ihr habt den hellen Klang nicht wahr, den meine Leier von sich gibt. (G. Aick)

[14] Du hast wahrlich recht, wenig ist an Meinungen gelegen.
(H. Hesse)

[15] Trotz ihres Kummers war sie stolz auf die weiße Schürze, die sie von nun an trug wie die Krankenschwestern, obwohl ihre Arbeit nur darin bestand, Wäsche im Stand zu erhalten. In der ersten Zeit war davon reichlich vorhanden. (A. Seghers)

[16] Wie sich später von den Gerichten herausstellte, ging ein Schuß in ein Wohnzimmer, durch die Schulter einer Frau.
(A. Seghers)

[17] Tolstoi begriff, daß eine Epoche angebrochen sei, der mit

世を現在と違ったふうに眺めたことは全くなかったとおもえるのだった。

ぼくはリュートが弾ける。歌も歌える。このすてきな響きを聴いてごらん... なのに君たちは浮かない目付きをして、顔を顰めてみる。わたしのリュートの奏でる澄みきった響きが、本当とはおもえないらしいね。

まったく君のいうとおりだ。いろいろ意見があっても、それはたいして重要でない。

彼女は、はじめではあっても、これから先看護婦のように身に着ける白い前掛けを誇らしくおもった。仕事は下着類を整理するだけだったけれども。はじめの頃は、それが大量にあったのだ。

後に裁判で分かったことだが、弾丸は或る住まいの、婦人の肩をつらぬいていたのだ。

トルストイは新たな時代がはじまったことを理解したのだ。単に人生を向上さ

nur lebenssteigernder Kunst nicht wahrhaft genug geschehe, sondern in welcher der leitende, entscheidende und erhellende, sozial sich bindende und dienende Geist dem objektiven Genie, das Sittliche und Intelligente dem unverantwortlich Schönen voranstehen müsse, . . .

(Th. Mann)

[18] Als er eingeschlafen war, legte ihm der Pate die Hände zusammen und lauschte an seinem stillgewordenen Herzen, bis in der Stube völlig Nacht geworden war.

(H. Hesse)

[19] Sie wurde nachdenklich. Plötzlich brach sie auf. „Kommen Sie“, sagte sie, „ich muß den Wagen aus der Sonne fahen. Ihm wird sonst heiß.“

(R. G. Binding)

[20] Er hätte aber auch als offener Bewerber kaum seinen Zweck erreicht, da er bei aller Musterhaftigkeit seiner Person und Sitten durch eine stolze Trockenheit sich wider Willen gerade bei denen am meisten schadete, an deren Gunst ihm vor andern gelegen sein mußte.

(E. Mörike)

せるだけの芸術をもってしては応じきれない時代——指導的な、断固とした、人を啓発する精神、社会的責任を感じて奉仕する精神が、客観的な立場に立つ天才に勝る時代、道義と英知が無責任な美に勝らねばならぬ時代——、そういう時代がはじまったのだ、と。

彼が寝入ったとき、名付け親は彼の両手を組んでやり、そして静かになった彼の胸に耳を澄ました。部屋の中はすっかり真っ暗闇になっていた。

彼女は考えていたが、突然話した。「いらっしゃいな」と彼女はいった。「車を日陰にいれなくちゃ。そうしないと熱くなっちゃうわ。」

しかし正式に求婚したところで、成功の見込みはあまりなかったろう。彼は人格、素行とも申し分なかったけれども、お高くとまった素っ気なさがあつて、そのために、だれよりも目をかけてもらわねばならない、まさにそういう人々のご機嫌を、心ならずも一番損じてしまったからだ。

[21] Rotkäppchen, sieh einmal die schönen Blumen, die ringsumher stehen, warum guckst du dich nicht um? Ich glaube, du hörst gar nicht, wie die Vöglein so lieblich singen? Du gehst ja für dich hin, als wenn du zur Schule gingst, und ist so lustig haußen in dem Wald.

(Grimm)

赤頭巾ちゃん、まわりに咲いているきれいなお花をちょっと見てごらん。どうしてふり向かないの? 小鳥たちがあんなに可愛らしくさえずってるのに、ちっとも聞こえないらしいね。学校へ行くときみたいに、どんどん歩くんだね。この森のなかはほんとに楽しいのよね[と狼はいった]。

§ 4. 非人称受動

これは関口氏が Hier wurde geraubt 型, Ihm wurde geholfen 型, Ihm ist geholfen 型の3項に分けて述べたものである。

そもそも非人称受動とは、自動詞または自動詞扱いの他動詞をもって受動形を作る文型であるから、まず自動詞の概念をはっきりさせておかなくてはならない。動詞が A 格を支配する場合にのみこれを「他動詞」と呼び、D 格・G 格・前置詞を支配するか、なにも支配しない場合のすべてを「自動詞」とすべきである。自動詞扱いとは他動詞にもなりうるもの(例: rauben)を自動詞とみなした用法を指す。

備考: 自動詞・他動詞の別、およびこれに関連する目的語と補足語の概念については「ドイツ語界の文法用語」で見解を述べる。

A. 一般非人称受動

[22] Denn wer bittet, empfängt; und wer sucht, der findet; und wer anklopft, dem wird aufgetan. (Matthäus)

すべて求むる者は得(a), たづぬる者は見だし, 門を叩く者は開かるなり。

備考: 非人称受動による同個所の訳例。羅 et pulsanti **aperietur**; 伊 e sarà aperto a chi picchia; 蘭 en wie klopt, dien **zal** opengedaan worden. これらは未来形で訳しているが、ドイツ語にも und wer anklopft, dem **wird** auf-

getan werden と非人称受動の未来形を用いたものもある。原文 ἀνοιγέσθαι
「開かれるであろう」は非人称受動の未来形である。

- [23] Um Antwort wird gebeten. ご返事をください。
- [24] Wo gehobelt wird, fallen 大事の前の多少の犠牲。
Späne.
- [25] . . . , niemand also konnte したがって、断食が本当に切れ目な
aus eigener Anschauung wissen, ob く、完全無欠に行なわれたかどうか、こ
wirklich ununterbrochen, fehlerlos れを自分の眼でみることのできる者は一
gehungert worden war; nur der 人もいなかったのだ。それを知っている
Hungerkünstler selbst konnte das のは断食芸人自身のほかにはありえなか
wissen. . . . (Fr. Kafka) った。
- [26] Politisiert wird im Lager al- 収容所では、いたるところで、ほとん
lenthalben und fast ununterbro- ど絶え間なく政治が話題になり、それ
chen, und handle es sich auch nur は、洩れてくる風説をなんとかして聞き
um ein begieriges Aufnehmen und 出すとか、ほかに広めるといった、そん
Weiterleiten der durchgesickerten なたわいないことでもよかった。
Gerüchte. . . . (V. E. Frankle)
- [27] Ich bin mein Leben lang ein わたしは生涯をつうじて個人と人格の
Verfechter des Einzelnen, der Per- 擁護者だったし、また個人の役に立つよ
sönlichkeit gewesen, und glaube うな一般原則とか処方箋があるなどとも
nicht daran, daß es Allgemeinge- おもわない。
setze und Rezepte gibt, mit denen
dem Einzelnen gedient wäre.
(H. Hesse)
- [28] Da nicht nur in Deutschland ドイツ語はドイツだけでなく、オー
Deutsch gesprochen wird, sondern トリアおよび隣国たるスイスの1部でも
auch in Österreich und in einem 話されているから、ここではさらに、最
Teil der benachbarten Schweiz, も情報の豊富な最上のドイツ語日刊紙の

sei hier noch auf eine der besten informativsten deutschsprachigen Tageszeitungen überhaupt hingewiesen.

(J. Glaubitz)

1つ (Neue Zürcher Zeitung) を取り上げることにする。

[29] Uns allen ein Vergnügen, dies zu hören. Darf von Ihrem Spitznamen auf Ihr Privatleben geschlossen werden, mein Bester?

(Fr. Dürrenmatt)

それをうかがうのは、われわれはみな楽しみです。あなたの渾名からして個人的生活を推測してもよろしいですか？あなた。

[30] An dem Leben der Tochter war dadurch nicht viel verändert.

(A. Seghers)

娘の人生はそのことで大きく変わったわけではない。

[31] So berechtigt und segensreich, so nötig und unerläßlich der-einst die Überwindung der Einseitigkeiten der Aufklärung durch die klassische Entwicklung der deutschen Dichtung und Philosophie gewesen ist, so unberechtigt und bedenklich war der vornehmerische Hochmut, womit in den romantischen Ausklängen der klassischen Zeit auf die Aufklärung heruntergeblickt und und der unvergängliche Wert ihrer großen Leistungen verkannt wurde.

(W. Windelband)

啓蒙主義の一面性が古典期のドイツ文学哲学の発展によって克服される、ということとは当時としてはまことにしかるべきこと、喜ぶべきことであり、必要欠くべからざることであつた。だがロマン主義的な古典期の末期に、啓蒙主義を見下し、その偉大な業績の不朽の価値を見損なつた、気取り屋の増上慢も故なきことであり、嘆かわしいかぎりであつた。

[32] „Ja, gut geschlichen muß werden“, bestätigte der kleine Dienstag. „Deswegen hatte ich ja

「そうさ、そつといかなきゃだめだよ」とチビの火曜日君が断言した。「だから、君たちにはぼくが必要だろうっておもつ

gedacht, ihr könntet mich brauchen. Ich schleiche wundervoll.“

(E. Kästner)

てたんだ。ぼくは忍び足がとてもうまいんだぜ。」

[33] Hilfe und Gabe wird nur dann wirksam, wenn gegeben und geholfen wird aus keinem anderen Grund, als eben um zu helfen.

(L. Rinser)

人に助力し、人に与えるということ
は、どんな動機からでもなく、助力する
という、まさにそのことのためになされ
る場合に、はじめて効果が出るものだ。

[34] Nach Mängeln der schulischen Erziehung befragt, kritisierten die Eltern vor allem, daß heute zu wenig auf „Disziplin“ (39 Prozent) und „Höflichkeit“ (35 Prozent) geachtet werde.

(Süddeutsche Zeitung)

学校教育に欠けているものはなにか、
との問いに対して、両親はとりわけ、今
日「規律」の尊重が少な過ぎる (39 パー
セント)、「礼儀作法」の尊重が少な過ぎ
る (35 パーセント)、と批判している。

[35] Dann, nach einer Stille, sagte er noch: „Solltest du ohne Mittel sein, so könnte fürs erste für dich gesorgt werden.“

(C. Zuckmayer)

それから、しばらく黙っていたが、彼
は「もしあなたが金に困っているのなら、
さしあたり、面倒をみてあげてもいい
ですよ」と付け加えた。

[36] In diesem Sektionsprotokoll, dessen Aussage nach dem heutigen Stand der Wissenschaft sehr umstritten und das von Zeitgenossen als „hahnebüchen“ bezeichnet worden ist, wird von Gehirnschwund und chronischen Entzündungen im Gehirn gesprochen.

(J. Desing)

この解剖記録の文言は今日の医学水準
からいうと問題が多く、しかも当時の人
々から「でっちあげ」とされた代物(し
ろもの)だが、そのなかで脳萎縮と慢性
的脳内炎症ということを謳っている。

[37] Herr Kim... wird auch nächstes Mal, wenn seine Aufenthaltsgenehmigung abgelaufen ist, zur Stadtverwaltung gehen müssen, um seinen Ausländerausweis zu verlängern und sich bei dieser Gelegenheit einen Fingerabdruck abnehmen zu lassen; denn so wird hier mit Ausländern verfahren.

(Fl. Coulmas)

キム氏は、滞在許可期間が切れると、外国人登録証を延長し、そのさい指紋押捺をすべく、次回も市の当該局へ出頭しなければならないであろう。この国では外国人はそういう扱いを受けることになっているのである。

[38] Am Tage nach seinem Abtritt wurde bei der Schallweis, die ihre Wohnung nicht verließ,... an der Flurtür gepocht.

(C. Zuckmayer)

彼が出発した翌日、住まいを離れずにいたシャルヴァイスのところで、戸口のドアを叩く音がした。

[39] Der Weg zum Friedhof lief immer neben der Chaussee, immer an ihrer Seite hin, bis er sein Ziel erreicht hatte, nämlich den Friedhof. An seiner anderen Seite lagen anfänglich menschliche Wohnungen, Neubauten der Vorstadt, an denen zum Teil noch gearbeitet wurde; und dann kamen Felder.

(Th. Mann)

墓地にゆく道はずっと大通りにそって、たえずその傍らを走っていて、最後には終点つまり墓地に達していた。その反対側には、はじめは人家がならぶ。それは1部まだ建築中の、町外れの新しい建物で、そのあとは畑になった。

[40] Überall wurde nun emsig gebaut, neue Werkstätten und Fabriken wurden errichtet, oft größer als zuvor, die Menschen freuten sich, wieder für den Frieden ar-

そこらじゅうで熱心に建設が進められ、新しい作業場や工場が建てられ、それも以前のより大きいことがしばしばだ。人々は、平和のために再び働けるのを喜んだ。

beiten zu können.

(R. Polt, J. Achleitner)

[41] Da er aber jedesmal erwiderte, es habe noch vollauf Zeit, und das Beste falle einem stets zuletzt ein, so tat sie es immer seltener und zuletzt kam es kaum noch vor, daß auch nur von dem Ring gesprochen wurde.

(R. Leander)

[42] „Kriech hinein“, sagte die Hexe, „und sieh zu, ob recht eingehiezt ist, damit wir das Brot hineinschießen können.“ Und wenn Gretel darin war, wollte sie den Ofen zumachen, und Gretel sollte darin braten und dann wollte sie's auch aufessen. (Grimm)

しかし彼はいつも、「まだたっぷり時間があるんだ、果報は寝て待て、っていうじゃないか」と答えたので、彼女もだんだんそれをいわなくなり、ついには指輪のことを口にするこゝも、ほとんどなくなってしまうた。

「這ってはいるんだよ」と魔女はいった。「中でパンを焼くんだから、十分熱くなったか、みてごらん。」魔女は、グレーテルが中にはいったら窯の蓋を閉め、彼女を蒸し焼きにして、それから彼女を食べてしまうつもりだった。

[43] Die Frage der Staatsangehörigkeit von Bewohnern ehemaliger Kolonien ist eines der Probleme, um die bei fast allen Entkolonialisierungsprozessen gestritten wurde. (Fl. Coulmas)

旧植民地の住民の国籍問題は、非植民地化のほとんどすべての過程で、論議の種になった問題の1つである。

[44] Über den Reichstagsbrand wurde von ihren Käufern kopfschüttelnd, erstaunt, manchmal mit einem gewissen Unglauben berichtet. (A. Seghers)

「国会議事堂放火事件」については彼女の顧客らは、いやはやと首をふったり、あきれたり、ときには信じられないといったふうに話していた。

B. **sich** を含む非人称受動

この項は関口氏にはない。そうたびたび現れる文型ではないが、注目に値するとおもう。

Über euch **wurde sich** günstig ausgesprochen. (Schulz-Gr., Gram.)

きみたちに有利な発言がなされた。

この非人称受動の無主語文は **sich** を含むのが著しい特徴で、その基礎はいうまでもなく **sich über ~ aussprechen** である。

備考：橋本氏『詳解ドイツ大文法』S. 290 は「非人称動詞・再帰動詞には受動形がない」と述べている。氏のいう非人称動詞とは本来のもの (*es regnet* 等) を指すのであるから問題はないが、再帰動詞の場合は、みられとおりに非人称の受動形が可能である。

ドゥーデン文法は、再帰動詞の受動形は一般にはありえないが、「(a) 主語を出さないか、または (b) 力強い要求の場合には、非人称受動が可能である」として、

- (1) **Da wurde ... in zitternder Angst sich verkrochen.**

不安におののきながらそこを逃げ出した。

- (2) **Jetzt wird sich hingelegt!**

さあさあ、ベッドにはいるんだよ!

- (3) **Jetzt wird sich gewaschen!**

顔を洗え!

を例に挙げている (1973, S. 94)。ここで (1) は (a), (2) (3) は (b) に当たるが、1984 の新版では、(1) の文例を「文学語で散見する」とし、一方「とりわけ日常の話し言葉」と断わって、

Hier wird sich hingelegt!

Jetzt wird sich gewaschen!

を例にしている (S. 183).

シュルツ・グリースバッハには前掲のほかにも文例がある.

..., daß **sich** ruhig verhalten **wird**.

落ち着いた態度をとること.

Vor dem Mann **wurde sich** gefürchtet.

この男は怖がられていた.

Der schwierigen Aufgabe **wurde sich** entledigt.

厄介な問題が片づけられた.

daß **sich** Zeit genommen **wird**.

たっぷり時間をかけること.

最後の文例の能動形は明らかに **sich^D zu ~ Zeit nehmen** で, **Zeit** は問題なく **A** 格であるが, この文例中でも **Zeit** は **A** 格であろう. なぜなら, もしこれが **N** 格だとすれば主語となり, その場合は **sich** は **A** 格となつて, 今度は受動形がありえないからである. この語法では **Zeit nehmen** をあたかも 1 語——**Zeitnehmen**——のごとく見なす以外に, 説明方法がないのではなからうか (**danksagen** のように). いずれにせよ この文型は, **A** 格を含む非人称再帰語法として注目すべきであろう.

次にいくつかの再帰動詞をもとに, 非人称受動文を挙げてみよう.

sich annehmen Des Kindes **wird sich** hier **angenommen**.

その子はここで面倒をみてくれる.

sich bedienen Dazu **wird sich** eines Werkzeuges **bedient**.

それには或る道具が用いられる.

sich beschäftigen Dort **wurde sich** mit etwas Gefährlichem **beschäftigt**.

あそこではなにか危険な仕事が行われていた.

sich kümmern Darum muß **sich** nicht **gekümmert werden**.

それは気にするには及ばない.

sich enthalten In seiner Gegenwart wurde sich des Sprechens
enthalten.

彼のいるところでは話すのが遠慮された。

これらの文例は「文法的に可能」というだけで、あるいは古風であり、あるいは不自然であって、きわめて特殊な文体、限られた文脈でのみ許されるものである。こういう再帰動詞を用いるには、ふつうは *Man nimmt sich hier des Kindes an.* のようにいえば足りる。問題は、あえて受動形にするところにある。ただ、再帰動詞においても、非人称・受動形の無主語文が不可能でない、ということを確認しておきたい。

§ 5. *ist...zu* ～ 型

ist...zu+他動詞 (A 格支配の動詞) を用いて受動的な意味を表わすことができるが、A 格を支配しない動詞(自動詞)にまでこの語法が拡大される。
10 「無主語文」のはじめに

Wem nicht zu raten ist, dem ist auch nicht zu helfen. (Spr.)
人のいうことに耳をかさぬ者は済度しがたい。

という文例を掲げたが、このように、*zu* 不定形が A 格支配でない場合は、*es* が消えると必ず無主語文になる。このほかの俚諺の例。

Dem Glück ist nicht zu trauen.

幸福はあてにならぬ。

Wer gar nicht traut, dem ist nicht zu trauen.

人を信用しない者は信用されない。

(§ 6. 参照)

[45] Und Siddharthas Seele シッダルタの魂は戻ってきた。死ん
kehrte zurück, war gestorben, war で、朽ちて、雲散霧消し、輪廻の沈鬱な
verwest, war zerstäubt, hatte den 陶酔を味わったのだ。新たな渴きを覚え
trüben Rausch des Kreislaufs ge- ながら、輪廻から離脱できそうな間隙

schmeckt, harnte in neuem Durst wie ein Jäger auf die Lücke, wo dem Kreislauf zu entrinnen wäre,

... (H. Hesse)

[46] Macht besaßen sie, daran war nicht zu zweifeln, eine gewaltige, durch nichts verdiente, oft furchtbar und unmenschlich mißbrauchte Macht...

(H. Hesse)

[47] Da in einer Gesellschaft wie der der Bundesrepublik das Recht auf Bildung zu den selbstverständlichen Grundrechten eines jeden Bürgers zählt und die Bundesländer beim Ausbau des Schulwesens bisher schon großen Erfolg hatten, ist damit zu rechnen, daß um 1980 etwa 45 bis 55 Prozent eines Geburtsjahrgangs die volle Ausbildungszeit der höheren Schulen hinter sich bringen werden.

(Zeitung)

[48] „Aber es war doch eben ein Haus da“, sagte Maman und konnte sich gar nicht so rasch an Wjera Schulin gewöhnen, die warm und lachend herausgelaufen war. Nun mußte man natürlich schnell hinein, und an das Haus war nicht mehr zu denken. (R. M. Rilke)

を、獵師よろしく狙っていた。

彼ら(教師たち)が権力をもっていたことは疑う余地がない。それは、強力な、しかるべき理由のない、またしばしば、凶暴に、非人間的に濫用される権力であった...

西独のような社会においては、教育を受ける権利は各市民の当然の基本的権利に属し、西独諸州は、教育制度の樹立にあたって今日まで大いなる成功を収めたので、1980年頃には、同一年齢層の45パーセントないし55パーセントは上級学校の教育過程を完全に終えることになるであろう、と見込まれる。

母は「だけどそこに家があったのよ」といって、親切そうに笑いながら走り出てきたヴィエーラ・シューリンとはすぐに打ち解けることができなかった。われわれは、もちろん急いで中にはいらなければならなかったの、その家のことはもう考えられなかった。

[49] Diesem stillen Fürsten, der jede äußerliche Teilnahme von sich ablehnte, und der doch wohl in der Tat der einzige Mensch war, der noch über Luther etwas vermocht hätte, war schlechterdings nicht beizukommen. (L. von Ranke)

この物静かな選定侯は表面的な関与を一切拒否し、しかも実際は、ルターになにか影響を与えることのできそうな、唯一の人だったけれども、とにかく全然取りつく島もなかった。

[50] Sie beschlossen, hier Nachtlager zu halten, aber der Hunger nagte, daß an keinen Schlummer zu denken war; auch das Kind wimmerte immer häufiger und kläglich. (W. H. Riehl)

彼らはここで野宿することに決心したが、空腹がひどくて、まったく寝つかれなかった。赤ん坊もますます頻繁にあわれっぽい泣き声を上げた。

[51] Wir fuhren um die Mittagszeit beim Gasthofe an, ich speiste an der öffentlichen Tafel, wo mich, so wie zu hoffen war, kein Mensch erkannte. (E. Mörike)

われわれは星頃旅館についた。わたしは食堂で星飯を食べたが、幸いにもわたしを知る者はいなかった。

[52] So gefügig auch das Laterankonzilium dem Papste war, so machte doch eine überaus starke Minorität—nur mit zwei oder drei Stimmen ging der Antrag durch—gegen jenen Zehnten die Einwendung, daß ja fürs erste noch an keinen Türkenkrieg zu denken sei. (L. von Ranke)

ラテラーノ公会議は法王に対して柔軟な態度だったが、しかしきわめて有力な少数派——わずか2、3票で動議が通った——が、かの十分の一税に反対して、「目下のところは対トルコ戦などは問題にならぬ」と異議を唱えたのであった。

[53] „Doch vor allem“, schloß er die Unterredung, „überlegen Sie sich jedes Wort, plappern Sie nicht

「なにはさておき」と彼は談話を締めくくった、「一語一語をとっくり考えて、やたらにペラペラしゃべらん ことす

einfach vor sich hin, sonst sehen Sie sich plötzlich zu einer langjährigen Zuchthausstrafe verurteilt, ohne daß noch zu helfen wäre.“

(Fr. Dürrenmatt)

[54] Bald danach kam der Herzog mit einem Regiment Soldaten, belagerte und stürmte das Schloß und als Ritter Henning sah, daß an kein Entkommen mehr für ihn zu denken sei, packte er alle seine Schätze in einen großen Kasten und...

(H. Schliemann)

§ 6. Hier ist gut wohnen 型

「ここは住みよい」は非人称の再帰形による

(a) Hier wohnt sich's gut.

(b) Hier läßt es sich gut wohnen. (「sich...lassen」参照)

のほかに, Hier ist gut wohnen. のように, sein の定形と zu なしの不定形を用いていい表わすこともできる.

[55] Mit leerer Hand ist schwer Vögel fangen.

濡れ手で粟は虫がいい.

これは不定形の特殊用法というもので, 文法的特徴は次のとおり.

- (1) 非人称 N 格の es を加える場合のほかは, N 格の主語がない.
- (2) 定形 ist のほか, 「～しやすい, ～しにくい」などの批評的な語を必要とする. gut, schlecht, leicht, böse, schwer, bequem 等.
- (3) 不定形のほうは, A 格の目的語をもつことができる. 例: Vögel.

(4) 上例の *gut wohnen*, *Vögel fangen* などを、そっくり N 格の主語と解しうる余地が全くないわけではないが、しかし § 5. の語法: *Ihm ist nicht mehr zu helfen*. 「彼はもう救いようがない」などと同様、非人称の無主語文と見るのが、やはり自然な語感だと考えられる。

(5) ただし前節の *ist...zu* ～ では *gut*, *leicht* 等は不要で、これは俚諺調にもみられる。

例: *Dem Trauen ist nicht zu trauen*. 結婚は当てにならない。

一方、ここでは不定形に *zu* がなく、必ず *gut*, *leicht* などの批評の語を要する。*gut* 等があつて *zu* ～ がつく場合は、次のタイプとの区別を改めて考えなくてはならない(「見るも哀れ」——*zu* 不定形の 1 用法)。

(6) 「見るも哀れ」*kümmertlich anzusehen* の型では、非人称でない N 格の主語があり、形容詞 (*kümmertlich*) はその述語であつて、かつ *zu* 不定形はこの形容詞への規定である。

Die Dame ist anmutig anzuschauen.

その婦人は見た眼にも優雅だ。

類似の諸形式を概観するとこうなる。

<i>ist...zu helfen</i>	§ 5
<i>ist...gut wohnen</i>	本項
<i>ist...schwer Vögel fangen</i>	本項
<i>ist (sind)...anmutig anzusehen</i>	「見るも哀れ」型
<i>ist (sind)...schnell zu schreiben</i>	受動型

次例のように、この語法は成句・俚諺に用いられることが多い。

1. *Aus anderer Leute Leder ist gut Riemen schneiden*.

他人の革で革紐を作るのは楽だ。

2. Wer gern tanzt, dem ist leicht pfeifen.
魚心あれば水心。
3. Mit eigener Peitsche und fremden Rossen ist gut fahren.
自分の笞と他人の馬なら気楽に行ける。
4. Im Trüben ist gut fischen.
どさくさ紛れは、仕事がしやすい。
5. Auf einem Bein ist nicht gut stehen.
一本脚では立てませんよ(=もう一杯いかがです)。
6. Nach getaner Arbeit ist gut ruhen.
ひと汗かいたあとの一服。
7. Mit vollem Bauch ist gut Predigten halten.
まともに食べていれば、人のいうことも耳にはいる。
8. Anderswo ist auch gut Brot essen.
どこへいっても食ってはいける。
9. Aus anderer Leute Beutel ist gut zehren.
人の財布で飲み食いは気楽。
10. Bei einem Dieb ist nicht gut stehlen.
泥棒の家では盗みにくい。
11. Ohne Federn ist nicht gut fliegen.
ない袖は振れぬ。
12. Den Gelehrten ist gut predigen.
学ある者には話しやすい。
13. Auf guter Haut ist gut schlafen.
丈夫ならよく眠れる。
14. Wer gern hört, dem ist leicht rufen.
人のいうことを聞く者にはお呼びがかかる。
15. Den Hungrigen ist nicht gut predigen.
空っ腹の耳に説教は無理。

16. Auf die Neige ist nicht gut sparen.

底をついてからの節約は遅い。

17. Hinterm Ofen ist leicht kriegen.

ストーブにあたって戦争するのは楽だ。

18. Aus leeren Taschen ist nicht gut zahlen.

ない袖は振れぬ。

19. Im Dunkeln ist gut munkeln.

暗がりには密会や悪事に好都合。

20. Vom Dach herab ist gut schimpfen.

屋根の上からは悪口が叩ける。

21. Aus der Ferne ist gut lügen.

遠来の者なら法螺も吹ける。

[56] „Willst du dich etwa mit der Alten zanken?“, schimpfte Marie. „Das laß lieber bleiben. Mit der ist nicht gut Kirschen essen und sie hält uns doch nur für Luder.“

(H. E. Nossack)

[57] Schließlich wurde er still, ließ nur noch gelegentlich ein trotziges Wort fallen: er werde uns noch zeigen, daß er keine Angst habe, weder vor den Ochsen noch vor dem Stier selber. Das hätte uns warnen sollen; doch dem einmal geweckten bösen Geist ist schwer widerstehen—wir trieben Spott weiter, und so trifft uns die eigentliche Schuld an den Ereignissen, . . .

(B. von Heiseler)

「年寄と喧嘩するつもりかい？」とマリイはけなした。「ほっておきなさいよ。ばあさんじゃ相手が悪いもの。あたしたちをあばずれってきめつけてるんだからね。」

しまいには彼も静かになり、ときおり反抗的な言葉を口にするだけになった。「雄牛だって、いや暴れ牛だって怖くない、っていうことをおまえたちにみせてやるぞ」というのだ。これはぼくたちへの警告のつもりだったのだろう。けれども、ひとたび目覚めた悪戯根性はどうしても抑えが利かない。ぼくたちは、それから彼をからかうのをやめなかった。だから、あの出来事の責任は、もともとぼくたちにある。

§ 7. Davon ist nicht die Rede 型

es を省略しない Es ist von ~ die Rede の文型が一方にあるから、これは明らかに es の省略の場合である。けれども N 格の die Rede はなんであろうか。von ~ ist die Rede の die Rede は、文法的な論議としてはこれを主語と解し、「~について話がある」とみうるかもしれないが、筆者は die Rede を熟語動詞 die Rede sein の規定部——zu Hause sein の zu Hause のごとく——として受け取り、全体を非人称文と考える。これは Davon ist keine Rede. の場合も同様とみていいであろう。もし die Rede, keine Rede が「主語」なら、この文型は「無主語文」を主題とする本稿にはふさわしくないが、判断保留のまま便宜上ここに加えておく。

[58] Wirklich erinnert Werther an jene Art edler Pferde, von denen in dem Buch einmal die Rede ist, und die, wenn sie schrecklich erhitzt und aufgejagt sind, sich selbst aus Instinkt eine Ader aufbeißen, um sich zu Atem zu helfen.

(Th. Mann)

じっさいヴェーアターは、例の高貴な馬種、この本にも一度出てくるが、ひどく興奮させられ追いつめられると、本能的にみずから血管を切り裂いて、楽に息ができるようにする、かの馬種をおもわせるものがあつた。

[59] Eines der neuen Zauberwörter, das hier in aller Munde ist, heißt „Internationalisierung.“ Alles und jedes muß internationalisiert werden. Im Fernsehen ist viel davon die Rede.

ここ(日本)でだれもが口にする新しい呪文の1つは「国際化」である。なにもかにもが国際化されねばならない。テレビでそれがよくいわれる。

Auf jeden Fall ist Internationalisierung, wenn man dem allgemeinen Sprachgebrauch vertrauen darf, etwas Gutes. Wenn immer davon die Rede ist, dann in einem

ともかく国際化というものは、一般の語法に従うなら、なにか結構なことなのだ。それが話題になるときは、積極的な意味でいわれるのである。

positiven Sinne. (Fl. Coulmas)

[60] Wenn Meier zu Schulze sagt; 甲が乙に「ミュラーは今日旅行に出た」という場合、甲は、共通の知人ミュラーについての立言たる1つの文をつづったわけである。そのためには、乙がちょうどその時ミュラーのことを考えているとか、ミュラーのことを質問したとか、といったことは必要でない。乙がミュラーを知っており、したがってだれの話であるかが分かっているならば、それで十分である。

[61] Erstens trank er. Nun, da- だいいち彼は飲んべえだ。まあこの話はまたあとにしよう。それに彼はやもめで、親なし子で、世間から見捨てられた男だ。愛する人はこの世にひとりもないのだ。
von wird noch die Rede sein.
Ferner war er verwitwet, verwaist und von aller Welt verlassen; er hatte nicht eine liebende Seele auf Erden. (Th. Mann)

[62] Ja, ich habe Grund zu vermuten, daß er überhaupt niemals dort gegessen hatte. Hingegen erinnerte ich mich sofort, daß gestern abends im Caféhaus viel von einem Duel die Rede gewesen, . . . 彼はそもそもそこへいったことがない、って見当をつけるだけのわけが、わたしにはあるんですよ。逆にわたしはすぐ思い出したんです、決闘があったという話を、ゆうペコーヒーショップで盛んにしましたからね。
(A. Schmitzler)